

## 次期釜石市総合計画策定に係るアンケート概要

### 1. アンケート内容の設計について

新しい総合計画策定にあって、特に優先的に取り組む施策を下記の通り仮定して、アンケート内容を設計したもの。

- 1) 復興…復興まちづくり基本計画を継承する計画であるとも考えられ、また、復興創生期間が終了しても、特にソフト面での復興に対する課題は継続するものと推測されます。
- 2) 地方創生…国の地方創生の動きを踏まえ、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組、外国人材の受入などの社会変化を見据え、互助や共助の仕組みづくりに向けた実効性ある取組を進める必要があります。
- 3) 防災…東日本大震災の経験を生かし、コミュニティの強化を図りながら、安全で安心して暮らせる、災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。
- 4) 行財政改革…行政の経営・地域資源、人材、地域の特徴の再評価をして、未来投資を可能とする自治体経営のあり方を明らかにする必要があります、人口が減少しても安心して幸せに暮らせる地域社会を実現するための道筋を示す必要があります。
- 5) 広域連携…人口減少社会における高齢化や人口の低密度化等により行政コストが増大する一方で、人材や財源等の資源は減少傾向にある中で、交通ネットワーク等を活用して三陸が一体となって地域の活性化に取り組む必要があります。

### 2. 調査概要

#### (1) 調査目的

新しい釜石市総合計画を策定するために、市民の意識を調査し、分析を行い、計画策定の為の基礎資料とする。

#### (2) 調査の概要

##### ① 18歳以上～80歳未満

実施時期 令和元年7月17日から7月31日まで

対象者 釜石市民1,400人（無作為抽出）

調査方法 調査票によるアンケート調査（郵送法） ※マークシート式

##### ② 高校生

実施時期 令和元年7月

対象者 釜石市内の高校2年生242人

（岩手県立釜石高等学校153人、岩手県立釜石商工高等学校89人）

調査方法 調査票によるアンケート調査（学校で配布・回収） ※マークシート式

#### (3) 回収結果

##### ① 18歳以上～80歳未満

回収数 455（回収率32.5%）

##### ② 高校生

回収数 230（釜石高校144人、釜石商工86人）（回収率97.5%）

### 3. 調査結果分析概要

頁数	主な内容
P13	<b>復興まちづくり基本計画の主な取り組み</b> 12 各項目の満足度5段階評定の平均値（評定平均）による比較 ・各項目を満足度5段階評定の平均値で比較すると、満足度が高いものは「交通ネットワークと物流拠点機能の形成」が3.4と最も高く、次いで「減災を重視したまちづくり」、「暮らしのための災害公営住宅の整備」、「生活・防災拠点としての教育

	<p>環境整備」がそれぞれ3.2である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一方、満足度の低いものは、「高齢化を踏まえた保健・医療・福祉・介護機能の向上」、「地域交通の確保」、「ものづくり産業の振興と新たな産業の創出」、「水産業の多面的な支援などによる魚のまちの復活」がそれぞれ2.8と低い結果。</li> <li>道路や防潮堤、災害復興公営住宅、学校施設等、ハード整備で目に見え、事業評価をしやすい施策に関する部分の評価は高く、ソフト面でのケアや具体的に事業をイメージしづらいものについては、評価が低い傾向がみられる。</li> </ul>
P20	<p><b>現在の生活環境等に関する総合的な取り組み</b></p> <p>各項目の満足度5段階評定の平均値による比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>満足度が高いものは「沿岸南部クリーンセンターで行っているごみ処理の方法」が3.6と最も高く、「広報誌発行など市の広報活動」が3.5、「騒音や水質、大気などの環境」が3.3と続いている。</li> <li>一方、満足度の低いものは、「釜石の物価」が2.2と最も低く、次いで「市外に行くためのバス・鉄道などの交通の便」、「仕事内容や収入、商売や事業の状況」がそれぞれ2.5である。</li> </ul>
P21	<p><b>満足度調査年度による比較</b></p> <p>満足度の算出方法は平成11年度・16年度は選択肢「満足、まあ満足、やや不満、不満」のうち、「満足」または「まあ満足」が選択された割合であり、令和元年度は「どちらでもない」を除いた選択肢「非常に満足、満足、不満、非常に不満」のうち、「非常に満足」または「満足」が選択された割合。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回上位を占めている項目の中で、4位の「通勤など日常生活で自家用自動車を使用するときの交通の便」以外は、15年前も上位を占めている。</li> <li>今回大幅に割合を上げた「通勤など日常生活で自家用自動車を使用するときの交通の便」や「小中学校の教育環境」については、復興まちづくり基本計画の各項目の満足度評価に通じるものがあり、復興事業で整備されたものは、評価が高いと言える。</li> </ul>
P22	<p><b>これからのまちづくりに関する設問（問20 釜石市が将来目指すべきまちの姿）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「福祉や医療などが充実したまち」…63.4%</li> <li>「災害に強いまち」…28.9%</li> <li>「交通利便性が発達したまち」…27.5%</li> </ol>
P29	<p><b>釜石市の行政運営に望むこと</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「市職員の能力の向上」…42.6%</li> <li>「民間で活躍し実績のある人材の登用」…36.3%</li> <li>「行政情報の積極的な公開」…35.2%</li> </ol> <p>「民間委託、民営化の推進」より、「民間で活躍し実績のある人材の登用」が上回る結果となった。</p>
P40	<p><b>自然災害が発生した場合に備えて日頃から準備していること</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「行政が指定している避難場所の確認」…77.1%</li> <li>「避難場所までの避難経路を地図などで確認」…62.2%</li> </ol> <p>避難行動に関する準備が上位を占める。</p>
P44	<p><b>避難訓練に参加したことの理由</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「いつどこで開催されているか知らないから」…46.2%</li> </ol> <p>「広報誌発行など市の広報活動」に対する満足度は高い一方で、各種施策に関する広報の工夫が必要であると感じられる。</p>
P45	<p><b>居住する地区で自然災害が発生した場合のリスク（災害別）</b></p> <p>〔津波〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「よく知っている」…21.9%</li> <li>「知っている」…47.6%</li> </ol> <p>合わせて約7割が知っているという結果になった。</p>

	<p>〔土砂災害〕</p> <p>1. 「よく知っている」…7.3%</p> <p>2. 「知っている」…33.8%</p> <p>知っているのは合わせても約4割であり、津波と比較してリスクが知られていないことを示す結果になった。</p>
↓以降、回答者属性別調査結果	
P76	<p><b>釜石市の住みやすさ（地区別）</b></p> <p>・中妻出張所管内と鶴住居出張所管内で「たいへん住みやすい」または「住みやすい」と回答する割合が多い。</p>
P97	<p><b>人口減少問題への釜石市の対策として重要と思うもの</b></p> <p>・いずれの性別、年代でも「働きながら子育てできる環境の整備」、「医療・福祉サービスの充実」、「雇用機会の創出」が多く、P32でも、人口減少社会へ対応するためには、どのような対策を講じていくことが必要だと思うかをたずねたところ、「働き方改革」43.4%と最も多い一方で、P24ページ 10年後の釜石市が「活力ある持続可能なまち」であるためには、財源に限りがある中で、今後どのような政策を重点的に取り組むべきだと思うかたずねたところ、「男女共同参画」は0.9%と最も低い結果となっている。</p>
P106	<p><b>避難訓練への参加について</b></p> <p>・年代別では、いずれの年代でも「いずれも参加したことがない」が高い割合を示すものの、20歳代から50歳代では「勤務先の避難訓練」、70歳代では「自治会・町内会・地区の避難訓練」への参加も多くなっている。地区別では、唐丹出張所管内が各種避難訓練への参加の割合が高かったが、他の地区ではいずれも「いずれも参加したことがない」が最も多い結果となった。</p>